CampbellCollaboration

Plain Language Summary
International Development

2016

低中所得国における障がい者と その介護者に対する地域に根ざしたリハビリテーションによる正の効果

Shakir Shahruddin, Kirtash Handicapped and Disabled Children's Home (CC 2.0)

地域に根ざしたリハビリテーションが障がいのある人々に良い影響をもたらすことが、中程度から高程度の良質なエビデンスにより示されている

このレビューの目的は何か？

このキャンベル系統的レビューでは、様々なタイプの身体的・精神的障がいをターゲットとした、低中所得国における様々な手タイプの地域に根ざしたリハビリテーション介入からのエビデンスを調査する。このレビューは、身体障がいに焦点を当てた6件の研究、及び精神障がいについての9件の研究、計15件研究をまとめた要約である。

地域に根ざしたリハビリテーションは、低中所得国における障がい者の生活に対して有益な効果をもたらす。

このレビューでは何を評価したのか？

障がいを持つ人とは、長期にわたり身体障がい、精神障がい、知的障がい、感覚障がいを抱えている人が含まれている。世界保健機関は低中所得国における障がい者のニーズに対応するための戦略として、地域に根ざしたリハビリテーション介入を推奨している。世界には障がいを持つ人々がおよそ10億人存在する。そのうちの80パーセントが低中所得国で生活している。

このキャンベル系統的レビューでは、様々なタイプの身体障がい、精神障がい、脳卒中、関節炎、慢性閉塞性肺疾患、統合失調症、認知症、知的障がいをターゲットとした、低中所得国における地域に根ざしたリハビリテーション介入からのエビデンスを調査する。

これらの介入は、障がい者とその介護者の基本的なニーズを満たし、主に地域資源を用いて包摂と参画を確実にすることにより、対象者の生活の質の向上を目的としている。これらの介入は5つの構成要素からなる。すなわち、健康、教育、暮らし、社会、エンパワーメントである。

どのような研究があったのか?

このレビューが対象とした研究では、広範囲のクライアントたち、介入とその結果を扱っている。

介入のうち14件の主な焦点となっているのは健康についてである。また、1件は教育についてである。地域に根ざしたリハビリテーションの他の構成要素は、複数の研究であまり焦点が当てられていない。

子どもに関する研究は1件のみであった。
ほとんどの介入が障がい者とその介護者を共に対象としているが、その多くの研究で、障がい者への介入の効果のみが評価されている。研究のうち多数がアジア、その中でも特に中国で実施された。1件の研究は南アフリカのものであった。このレビューは、サハラ以南のアフリカの研究の必要性を強調する。

このレビューがどれぐらい最新のものか？

このレビューの著者は、1976年から2012年の間に公表された研究を検索した。このキャンベル系統的レビューは2016年7月に公表されたものである。

キャンベル共同計画とは？

キャンベル共同計画は、系統的レビューを公開している、国際的・自主的・非営利の研究ネットワークである。我々は、社会および行動科学のプログラムに関するエビデンスの質を評価し、まとめている。我々の目的は、人々がより良い選択そして政策決定ができるように手助けをすることである。

この要約について

この要約はキャンベルシステマティックレビュー、2015:15‘Community-based Rehabilitation for People With Disabilities in Low- and Middle-income Countries: A Systematic Review’ by Valentina Iemmi, Lorna Gibson, Karl Blanchet, K Suresh Kumar, Santosh Rath, Sally Hartley, Gudlavalleti VS Murthy, Vikram Patel, Joerg Weber, Hannah Kuper (DOI: 10.4073/ csr.2015.15)に基づき、Chui Hsia Yong(キャンベル共同計画)が用意したものである。この要約は、Tanya Kristiansen(キャンベル共同計画)により企画、編集、プロデュースが為された。

3ie International Initiative for Impact Evaluation

このレビューにおける主要な研究結果は何か？

地域に根ざしたリハビリテーションが障がい者に良い影響をもたらすことが、中程度から高程度の良質のエビデンスよって示されている。

身体障がい者の地域に根ざしたリハビリテーション(CBR: community- based rehabilitation)に焦点を当てた6件の研究のうち、3件が脳卒中に対する介入の一連の結果における有益な効果を示したが、1件はそれらよりは小さな効果が確認された。他の1件の研究では、関節炎に対するCBRの有益な影響が見つかった。残る1件の研究では、慢性閉塞性肺疾患の患者に対してCBRの良い影響が示された。

精神障がい者に対するCBRの影響を評価する9件の研究では、統合失調症(5件)，認知症(3件)，知的障がい(1件)に対して有益な効果が示された。
レビューの選択基準を満たした研究はすべて、地域に根ざしたリハビリテーションにおける経済的評価を行っていない。

このレビューからわかることは何か？

各々の地域に根ざしたリハビリテーションプログラムは、特定のニーズと設定に合わせて構成されている。さらに、参加、生活の質、臨床成果などの様々な領域で、影響が測定されている。このことは、地域に根ざしたリハビリテーションの有効性についてのエビデンスベースを確立することが困難であることを意味する。

低中所得国が直面する課題を考慮すると、資源配分が適切であるかどうかを理解するために必要となるのは、費用対効果を含めた経済的評価である。

より強力なエビデンスを確立するため、将来の研究はより広範囲のクライアント集団に焦点を当て、かつ経済的評価を含める必要があるだろう。